

田川地区の高校再編整備計画<第2次計画（骨子案）>に係る地域説明会
【鶴岡市会場】 記録要旨

- 1 日 時 平成 29 年 11 月 2 日（木） 19：00～20：30
- 2 場 所 鶴岡市 出羽庄内国際村（鶴岡市伊勢原町 8-32）
- 3 出席者 地域の方々 178 名
県教委 教育次長、高校改革推進室長、高校改革推進室長補佐
高校改革主査 2 名
- 4 内 容 高校改革推進室長から概要説明後、質疑応答
- 5 質疑応答概要

（質問・意見）

中高一貫校について、平成 26 年 7 月「社会の変化に対応した県立高校の将来の在り方について報告書」では、庄内地区への設置については、東根中高一貫校の成果を踏まえるとあるが、その成果をどのように捉えているか伺いたい。

（県教委）

在り方検討委員会の報告を受けて、県教育委員会では平成 26 年 11 月に県立高校再編整備基本計画を策定した。その中で、庄内地区については、東根中高一貫校の開校に向けた取り組みや、全国の併設型中高一貫教育校の成果を踏まえ、設置を検討していくという方針が示されている。東桜学館中学校・高等学校は開校してまだ 2 年目であり、数値として示せる成果としての材料は少ないが、体験的な学習や探究型の学習に意欲的に取り組み、在校生徒の満足度は非常に高い。また、他県での先進事例の成果検証を見ても教育効果はあることから、本県においても、中等教育のもう一つの選択肢として提供するべきだと判断している。

（質問・意見）

①中高一貫校の設置に関して、全国の成果と検証とあるが、いじめとか問題点も多いと聞く。問題点についての事例を教えてください。

②鶴岡市からの中高一貫校設置の要望とあったが、何が根拠になって鶴岡市に決まったかの経緯を聞きたい。巷での話であるが、サイエンスパークに勤めている研究者は約 3 年間で東京に帰ってしまうが、鶴岡に勤務の際、子どもを含め家族を連れてこない。その要因の一つに中高一貫校がないなど教育環境にあるということを知りたい。このような一握りの人の要望がもとになっているのか聞きたい。

（県教委）

①中高一貫校におけるいじめの件数などの統計資料はない。生活指導上の諸問題については、中高一貫校に限らず、それぞれの学校で未然防止や解消に一生懸命取り組んでいる。中高一貫校の課題の一つには、中だるみの問題がある。高校入試がないために、目の前の目標がない。別の見方としては、自分の興味があることを追求できるという面もある。全国の中高一貫校では、定期的な試験に加えて、語学の検定試験など、細かなステップを設けて指導している。また、伸びる生徒はどんどん伸びるということが言える。そのため、学力の幅が

広がるという現実があり、勉強に目が向かない生徒のフォローが課題となっている。

②鶴岡市が要望するに至った経緯は承知していないが、県外から鶴岡に来て生活する人だけでなく、鶴岡に在住する人にとっても、中高一貫校が選択肢の一つになり、そういった教育環境の充実が定住促進の一助となるのではないかと。

(質問・意見)

加茂水産高校と庄内農業高校の2校が鶴岡中央高校に統合になるメリットについては理解できた。しかしながら、2校が工業高校と一緒に産業高校となるメリットの方が大きいと思うが、検討の中でこういう意見はなかったのか。

(県教委)

産業界からの意見聴取の中でそのような意見もあった。現に県内には、工業と農業が一緒になった神室産業高校や工業と農業と商業が一緒になった村山産業高校がある。学科の枠を超えた連携によって6次産業についても学ぶことができる。しかし、工業科はそれぞれの専門分野が細分化されており、他の分野とがっちり連携することが難しいという面がある。その点、総合学科は幅が広く、連携という点においてやりやすい。また、平成10年に鶴岡家政高校と鶴岡西高校が統合してできた鶴岡中央高校は、施設設備面でも充実しており、よりメリットが大きいと判断した。

(質問・意見)

政府の規制改革会議では、進学校への設置は受験エリート校化とすることを批判しているが、鶴岡南と鶴岡北が統合する学校に設置するのは、中高一貫校の設置の趣旨に反するのではないかと。また、すべての高校に中高一貫校があってもよいと考えるが、いかがか。

(県教委)

平成9年の中央教育審議会第二次答申を受けて、中高一貫校の制度が導入されたが、その中の留意点に、受験エリート校化も触れられている。確かに、受験テクニックに特化し、点数を取らせて大学に進学させるだけの指導は好ましくない。他県の中高一貫校の取り組み例としては、地域の企業と連携し探究的な学びで課題を解決することやボランティアなど様々な体験活動を通して学びを育てている。案として考えている学校のベースになる鶴岡南高と鶴岡北高両校とも、勉強だけでなく部活動も含め幅広い教育をしている。新しい高校もそうなってほしいと考えている。また、併設の中学校から入る生徒にとっても芽を出し花開いてほしい。

(質問・意見)

庄内中高一貫校は鶴岡南高校と鶴岡北高校の敷地を利用してとあるが、具体的にどのような配置を想定しているのか。

(県教委)

具体的な活用計画については、準備段階で検討していくこととなる。今のところの想定としては、生徒数の規模を考えると、校舎敷地が広い鶴岡南高校に高校のホームルーム教室を、鶴岡北高校に中学校のホームルーム教室を基本にと考えているが、もう少し工夫をして、中

学生と高校生のかかわりをどう作っていくか検討していく。理想は校舎一体型が望ましいが、両校の校舎を活用することが、現在の校舎の有効利用や早期開校を考えた中で、最も自然な形であると考えている。まだ、案は最善とは限らないので、中学校と高校の交流の在り方について、いいアイデアがあれば柔軟に取り入れていきたい。

(質問・意見)

中高一貫校のメリットを実現するために校舎整備という条件は欠かせない。校舎が別校舎になると、1人の教師が6年間同じ生徒を教えるということは難しくなると思う。要望になるが、中学生と高校生が離れたとしても異年齢集団が交わり社会性、豊かな人間性を育むためにも、より良い教育環境を整えていただきたい。いざ、開校となったときに、教師や生徒の行き来が多く多忙感につながったということにならないように、建物の配置を含めて、皆が納得いくような形にしていきたい。

(県教委)

貴重な意見ありがとうございます。生徒の頻繁な移動は、負担が伴い、安全面の課題もある。教員も、実際、10分間の休み時間での移動は難しい。できるだけ中学生と高校生が交流する場面をつくるということと、移動に伴う過剰な負担にならないようにすることの両面を考えながら、より良いものになるように検討していきたい。

(質問・意見)

①再編整備期間としている平成36年度までに合わせて、中高一貫校にすることはメリットとデメリットがあり拙速ではないか。

②中高一貫校ができたとなると、現在の鶴岡南高校と鶴岡北高校に入りたいという生徒の希望を削ぐことにならないか。

③鶴岡市からの要望があったというが、市民に意見を求められたということはない。これから意見を述べていきたいと思っている。

(県教委)

①中高一貫教育については平成11年に制度化され、他県で導入が進んだ。本県は慎重に進めてきており、平成21年の設置構想から6年の検討を経て、東桜学館が開校した。庄内地区においても、できればあまり間をおかずにモデル校を設置することで、公平性を保てると思っている。それでもしっかり検討する必要があるので、来年度から数えて6年か5年をかけて準備するとしている。

②統合はせずに、高校の選択肢を確保するのがいいのか、統合をすることで学校の規模を維持し、高校に入ってから進路選択に対応できるようにするのがいいのか、これらを検討した結果としての案を提示している。統合しなければ、各学校の規模が縮小し、入ってからの選択の幅が狭くなる。統合し学校規模を維持することで、多くの先生や友人とかかわることができ、科目やコースも選択できるようになる後者のほうが教育的に優れていると考えた。

③鶴岡市から設置の要望はいただいているが、県教育委員会として総合的に判断し、今回の案を提示している。本日の説明会を含め、いろいろな意見を踏まえて策定していきたいと

考えている。

(質問・意見)

①庄内農業高校と加茂水産高校は鶴岡中央高校に統合という案であるが、産業教育の視点から産業高校ということを検討願いたい。鶴岡中央高校は普通科と総合学科の2学科があり経営も大変である中、2校が加わることで校舎制という新たな負担が加わり、さらに経営が困難になることが想定される。

②農業科、水産科という専門学科と総合学科との連携はどういうものなのか。2学科が将来、総合学科になってしまわないか心配である。両学科は地域にとって大事な基幹産業であり、専門学科として継続することが、将来の人材育成の点でも大切なことだと考える。

③定時制と通信制はなぜ庄内総合高校なのか。鶴岡市在住の人にとっての通学が容易でなくなる。西学区の庄内地区には、酒田西高校にも定時制があるが、今後、県内の定時制はどうしていくのか。

④中高一貫校について、既存の校地、校舎を活用してとあるが、新しい学校を設置するのであれば、新しい校舎を建設してほしい。

⑤第2次計画案とあるが、地域の産業教育を支える人材の育成という観点から、今の高校再編整備の枠組みやルールでは、20年後にどうなっているか不安である。枠組みやルールの見直しをする必要があると感じている。

(県教委)

①学校経営面では、学科が多くあったり、校舎制になったりすれば、経営面で大変なのは理解している。第3次計画について、現時点で時期や詳細を決めているわけではない。もし、校舎制を導入する場合においては、人員配置などについて考えなければならない。

②農業科と水産科の専門性は十分理解しており、総合学科とする予定はない。

③鶴岡市に住んでいる人が庄内総合高校の定時制に通うことは、今より不便になることは承知している。田川地区全体での高校の再編を考えたときに、庄内総合高校の在り方も含め、学校の集約によるスケールメリットを活かし、多様なニーズに対する学びの場の提供という点でこのような案になった。

④国の方針、県の方針として、公共施設の長寿命化ということがあり、使用できる施設については、改修等により安全性を確保し、使っていくことが基本となっている。まだまだ耐用年数がある校舎を使わず、新しいものを建設するというのは現実的ではない。ただし、新しい学校として必要な改修については予算要求していきたい。

⑤再編整備のルールについて、現段階で最も望ましいものとして案を提示している。定時制について、酒田西高校は平成30年度から昼間定時制と変わる。県内の定時制の20年、30年後について、今具体的に述べることはできない。

(質問・意見)

①第5次山形教育振興計画を経ての第6次教育振興計画とあるが、第5次の振興計画の総括はどうなっているのか。

②計画を立てる県教育委員会は夢を語るが、そうやって現在の学校を否定している。学校を支えているのは教職員であり、超過勤務など現場の先生の犠牲のもと成り立っている。探究的な学習などは今のままでもできる。教職員がゆとりをもって仕事ができるように、もっと考えるべきだ。

③中高一貫校というエリート校はやめるべきだ。東桜学館や他県の例を挙げるが、もっと地域に目をやり、山形の教育について考えてほしい。山形の学校は、地域に住んでいる人、地域に住む生徒とともに成り立っている。鶴岡南と鶴岡北が統合し中高一貫校ができることによる、中学校と小学校に与える影響をもっと考えてほしい。

④定時制と通信制が庄内総合高校にまとまることについても、位置が地区の真ん中だからよいというのではなく、もっと慎重に考えるべきだ。

全体的な進め方として、もっと意見を多く聞いて、中間説明会を開くなど慎重に進めてほしい。

(県教委)

今後の進め方として、1月の教育委員会にかけるところを目途としているが、必要があれば説明会を開催するなど丁寧にしていきたい。今回の再編整備の第2次骨子案は、現在の学校を否定してのものではなく、少子化の現状や今後の学校の小規模化に対応しての案を提示しているものであるので、今回の説明会の意見も踏まえて検討を続けていきたい。

以上